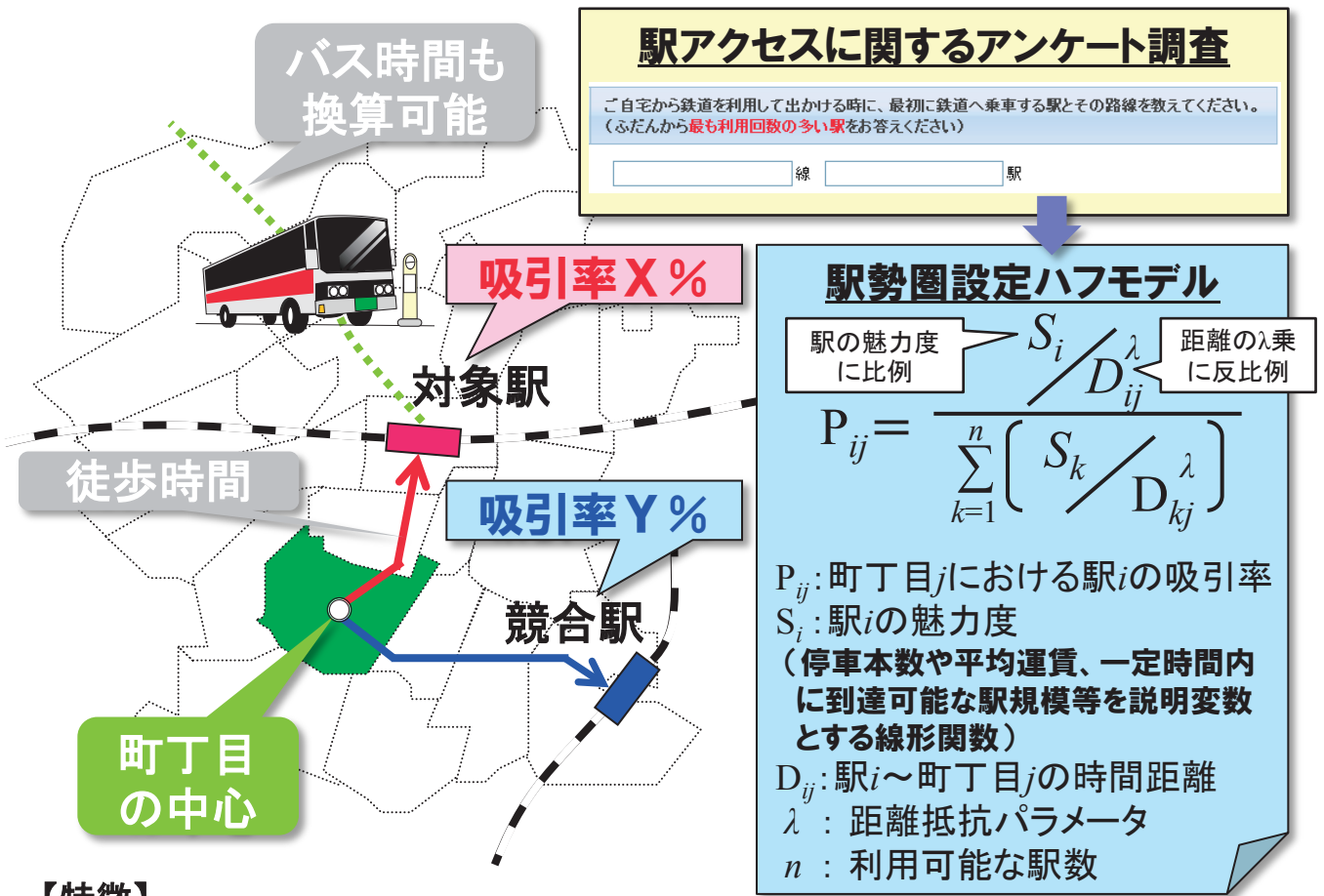


鉄道競合地域における 駅勢圏設定手法

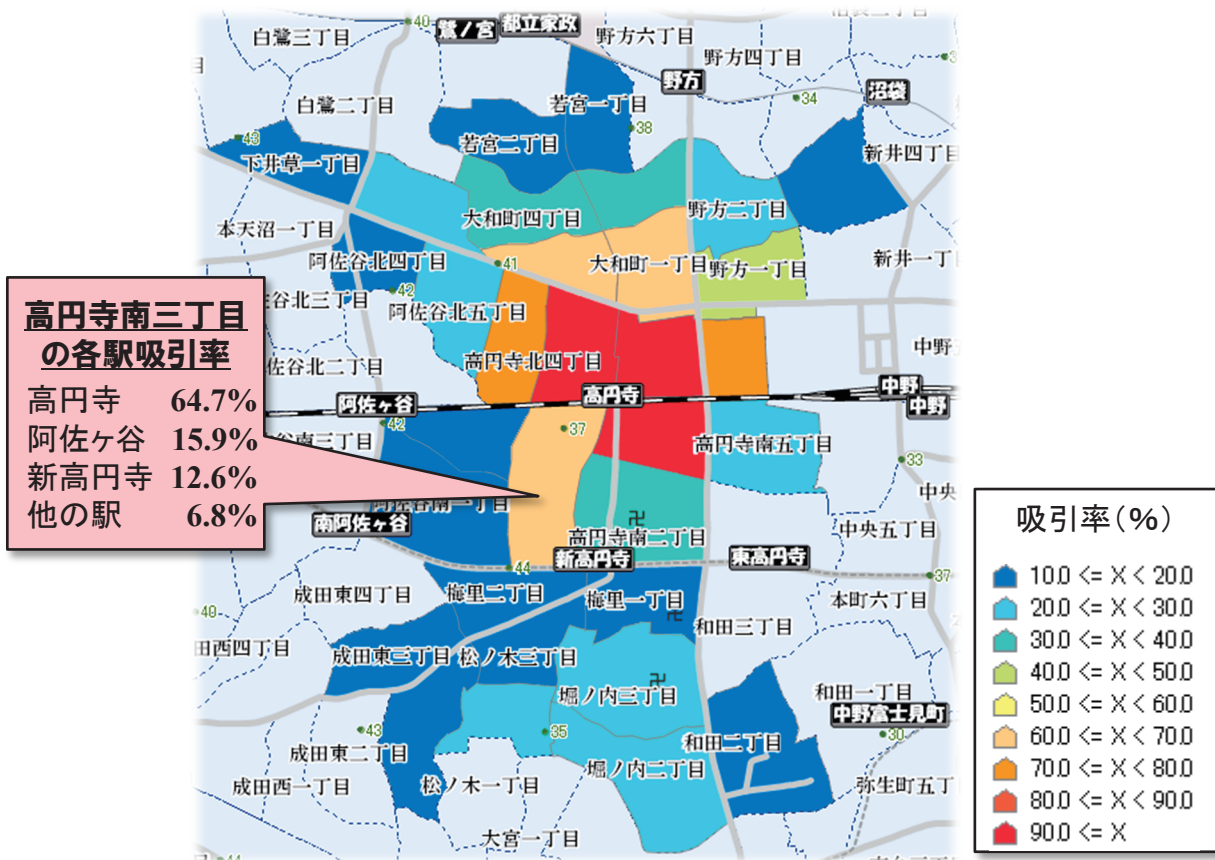
【概要】

駅勢圏とは、駅を中心にその駅を利用すると期待される需要の勢力範囲を言い、この駅勢圏を明示的に設定する手法を開発しました。まず、調査対象地域において、鉄道利用者へのインターネットアンケートで駅へのアクセス動向（どの駅をどの程度利用しているか）を調査し、次に取得したデータを用いて数理モデルを作成します。このモデルにより、駅の周囲に広がる町丁目毎に、近隣にある他の鉄道会社の駅などの競合駅との需要の取り合い（吸引率）を計算し、駅勢圏を設定します。

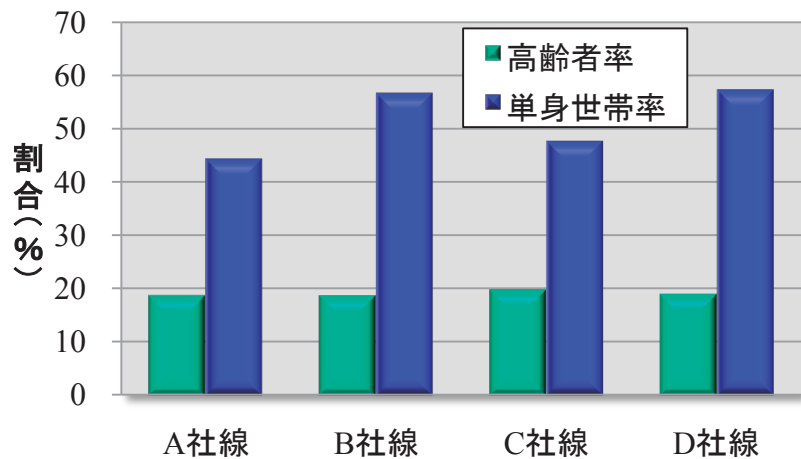


【特徴】

- ◆ 調査対象地域にて独自のアンケート調査を行うことで、本手法には鉄道会社間の競合状況など、その地域特有の駅利用状況が反映されます。
- ◆ 数理モデルの一例として、駅の魅力度に比例し、駅までの時間距離の2～3乗程度に反比例する概念を持つ「ハフモデル」を適用します。
- ◆ 各町丁目毎に、駅の利用確率である吸引率を計算し、鉄道競合地域においても駅勢圏を定量的に把握することができます。



〔分析例〕 駅勢圏の計算（JR高円寺駅）



〔分析例〕 杉並区における会社線別の駅勢圏内居住者特性
(平成17年国勢調査 町丁目別データを利用)

【用途】

駅の一日乗降人数などの需要予測や、駅ナカ商業施設のマーケティングリサーチに活用いただけるものと考えています。

特開2010-140074 特願2010-230359

(公財) 鉄道総合技術研究所 輸送情報技術研究部 (交通計画研究室)